

合唱をやったことがないけど、 大学からでも大丈夫？



—そんな不安に答えます—

薬学部薬学科3年

高木誠人



文学部倫理学専攻3年

大門奈央

1

—それでは、インタビューを始めます。よろしくお願いします。最初に自己紹介をお願いします。

大門: はい。文学部倫理学専攻3年の大門奈央です。パートはソプラノです。

高木: 薬学部薬学科3年の高木誠人です。パートはバリトンです。

—ありがとうございます。役職も教えていただけますか？

大門: 私は総務部長っていう役職をしています。総務って漠然とした言葉なんですけど、基本的には楽友会で外部施設を使って練習するときに場所取りをしたり、あとは大学に練習の申請をしたりする、割と裏方みたいな仕事をしています。

—いつもありがとうございます。では高木さんの役職も教えてください。

高木: 自分の役職は庶務部長と呼ばれているもので、これも名前からは想像しづらいんですけど、主に楽友会のOB・OGの方との連絡だったり、指揮者の先生やピアニストさんとの連絡だったり…、楽友会に関わる大人との繋がりを維持する役割が大きい役職です。

—ありがとうございます。ではさっそく質問に移りたいと思います。まずお二人は中高時代に、どんな部活動をされていましたか？大門さん、どうでしょうか。

大門: 私は中高一貫の学校だったので部活も中高持ち上がりだったんですけど、ずっと書道部に入っていました。書道自体は小学生の頃からずっとして、今でも続けているんですけど、っていう一番長い趣味ですね。

—そうでしたね。確か兼サー先が書道の…なんでしたっけ？

大門: そうそう、書道会っていうサークルがあるのでそっちにも入ってます。

—去年の定期演奏会で大門さんが題字を書いてくださったのが記憶に新しいです。

大門: あれが今まで大学入ってから一番頑張って書道したかもしれないですね(笑)。

—そうなんですね。では高木さんはどうですか？

高木: 自分は中学校のときは剣道部に入っていて、高校はアーチェリー部に入っていました。

—運動部だったんですね、意外です。



文学部 3年 大門奈央

高木:そうですね。中学も高校もあんまり文化部が無くて、あと仲が良かった友達が入っていたので、流れでそこに入っていました。

—なるほど、いいですね。では逆に、お二人は中学・高校時代に何か音楽経験はありますか？

大門:いや、私は本当になくて、よくある中学校の合唱コンクールとかのレベルですね。それくらいしか経験なかったです。

高木:そうだね。俺も同じで中高は合唱コンクールが楽しかったな、ぐらいいんだけど、実は幼稚園の頃から小学校 3 年生ぐらいまでピアノを習っていて…。

—同:えー！

高木:中学校・高校でもたまにピアノ弾いてたかな。だから音楽と関わっ

てる時間は長いと思います。

—なるほど。あ、じゃあもう楽友会に入った時には楽譜も読めちゃう感じでしたか？

高木:ああ～そうね、楽譜は読めたね。

大門:ちなみに私はほとんど読めませーん。今でもあんまり読めません。

高木:慣れる慣れる(笑)。それで歌えてるから。

—そうですね。とはいえ、楽譜が読めない団員って結構いますよね。

大門:実はね。

—だから、楽友会はそんなに音楽経験がなくてもやっていけるところなのかな、と。

高木:うんうん、確かに。

楽友会の皆仲良さそうな雰囲気が良いな、と

—次に、大学に入ってどうして楽友会に入ろうと思ったんでしょうか？では大門さん？

大門:えっと私は、実は入団したのが途中入団っていう形で、4 月の新歓期じゃなくて 1 年の 10 月とかにいきなり入ったんですね。だから 4 月の時点では、楽友会の存在も多分知らなかったし、合唱のサークルに入るつもりもなかったんですけど、ただ漠然と音楽のサークルに入りたいなって思っていて。新歓期は結局オンラインっていうのもあって決心がつかなくて、ズルズル来たんですけど。

高木:うん。

大門:それで 9 月ぐらいにこっちに上京してきて、また何か新しいことを始めたいなって思った時に、歌うのが好きだったから「あーじゃあ合唱でもいいかな」って思って。歌えれば別に J-pop とかじゃなくても、合唱でもありだと思ったんですね。それで楽友の Twitter をのぞいたら、ポイトレ(ボイストレーニング)とかもしてくれているし男女両方いるし、あといつでも入れますよ、みたいなことが書いてあって、結構敷居が低くなって思って興味を持ったのがきっかけでしたね。

—そうだったんですね。今聞いていて少し気になったんですけど、上京されてきたのが 9 月なんですか？

大門:そうです(笑)。2020年の春学期は完全オンラインだったので、大学行く必要がなかったから、同級生でも結構そういう子は多かったですね。

—なるほど、それは大変でしたね。そういえば、昨年的大门さんの他己紹介(楽友会で毎年作成される、現役団員の紹介シートのようなもの)には、「高校の友達がいつか結婚するとき、結婚式で歌うと約束したため、歌が上手くなろうと楽友会に入った」、といったことが書いてありましたよね。これについてもお話をお聞きしてよろしいですか？

大門:あー(笑)。それも理由の一つであるっていうか。そもそもなんで音楽をやりたいかって言ったら、歌うのも好きだし、歌上手くなりたいっていうのが多分みんなあるじゃん。

—同:うんうん。

大門:それに加えて、友達がそう言ってくれたことが嬉しかったから、明確な一つの目標にすることで、長期的な歌へのモチベーションに繋がるかなと思って。

—素敵ですね。では楽友会に入った理由を、次には高木さんにお聞きしてもよろしいですか？

高木:はい。そうね、俺も元々音楽のサークル入りたいなと思ってて。でも楽器は経験者と差がすごいだろうから、合唱のサークルに絞って探していました。いくつか新歓を見てみて、楽友会の皆仲良さそうな雰囲気が良いなと思ったので、そのまま入っちゃいました。

—なるほど。確かに合唱未経験の人が合唱サークルに入る理由で多いのって、団の雰囲気とか仲の良さですよ。

高木:うん、確かに皆言うよね。

大門:そうなんだ。私はいきなり「入ります！」って言って練習見に行ったタイプだから、仲の良さとか分からず入った(笑)。

—そういうタイプの方もいるんですね。

こんなに親切的な団体あんまりないんじゃないかなって思う。全員すくいいあげてくれるじゃん。

—次に、楽友会に入って大変だったことは何でしょうか？

大門:これは楽友の側にあるっていうよりは、私の背景と関係があるんですけど…。さっきも言った通り書道部をずっとやってて。書道って基本的に一人でやるじゃん。自分も結構個人主義な人間なので、先輩後輩とかの関係を築くっていう経験も実は中高でそんなにしてこなくて。なので初めて入った時は、何十人も人間と一緒に活動して、「お疲れさまでした」とか言ってワイワイしてるみたいな空気感が自分にとって新鮮だった。みんなと一緒に歌ったり、時間余ったらリクリエーションしたりみたいな、ワイワイしている空気にどういうスタンスで入っていけばいいのかな



みたいなところが、まあ途中入団だったっていうのもあって、1年の12月とかまではもうそれに悩んで終わったかも知れない。ちゃんと仲良くなったのは2年からって感じだと思う。

—なるほど。仲良くなったきっかけとかあるんですか？

大門:あ、それは結構明確にあって。定演(定期演奏会)当日って朝から夜までみんなで一緒に居るじゃん。ちょっとダラダラしてる時間とか待ち時間とか。みんなで写真撮ったり喋ったりみたいな、本当そういう些細な時間が、(コロナ禍の)2020年ってなかったんだよね。

—あー、確かにそうですね。

大門:練習しなくて遊びに行けないっていう状況から、定演時に初めて友達っぽく騒ぐっていう経験をして。しかも定演ってめっちゃ感動的じゃん。そんな劇的な一日を経て、仲間に対して心から打ち解けることができたように思いますね。

—それが今では練習終わりに全体連絡を取り仕切っていて。

大門:それな(笑)、やばいよね。みんなに囲まれて、みたいな状況怖い。

—怖いんですか(笑)。

大門:怖いっていうか、緊張する(笑)。

高木:様になってるよ、ちゃんと。

大門:いやもっとこれから様になって行く予定だから。頼むわ。

高木:楽しみにしてる。

—では高木さんにも大変だったことをお聞きたいのですが、何かありますか？

高木:多分これは大学のサークルではどこもそうなのだろうけど、自分に責任が生じるところかな。中高の部活と違って自分たちで運営をしているからね。自分に責任が生じるのが苦手だったので、それが大変かなと思います。

—そうですね。楽友会ってみんな何かしら役職ついてて責任があるみたいな。

高木:そうそうそう。

—でもそれで楽友愛が湧くってこともあるんじゃないですか？

高木:人によってはあると思うよ、多分(笑)。

—ここまでお二人に大変だったことをお聞きしましたが、音楽面に関して大変だったことってあまり出てきませんでしたね。少し意外でした。

大門:うんうん。

高木:そうね。やっぱり音楽できる人がちゃんと引っ張ってくれてるから、この団体は練習に参加していれば全然音楽やったことなくてもついていけると思ってる。

大門:うん。いやこんなに親切的な団体あんまりないんじゃないかなって思う。全員すくいあげてくれるじゃん。誰でも何もでも言っていよいよっていう開かれた環境が出来てるのが、この曲苦手だなあって思う時とか、初心者としてはすごく安心できますね。

—確かにそうですね。普段の練習とかでも、分からないところは技術さんをはじめとする先輩方がすごく丁寧に教えてくださる印象はあります。

メロディー歌えるとき、気持ち良いよね。

—そういえば入団したらすぐくらいの時期に声分け(ボイストレーナーの先生にパート分けをしてもらう機会)ってありましたよね。未経験者として、分けられたパートは自分の予想通りでしたか？

高木:俺は、地声が高い方だからてっきりテナーに入るかなと思ってた。まあたぶん人数の調整もあったんだろうね、ベースの方に回されてちょっとびっくりした。

大門:いや衝撃的な事実なんですけど、私は声分けしてもらってないんですよ。

一同:えっ!!

—そうなんですか?!今はソプラノですよ。

大門:そう。途中入団だから4月の声分けには参加できないじゃん。それ以降もタイミングが合わなくて結局見てもらってない。私がソプラノなのは、メロディーライン多くて比較的音取りしやすそうっていうのが理由だから。聞いてあきれられるよね(笑)。

高木:うーん、なるほど。

大門:そう。初心者の鏡みたいな理由だから。

高木:いや、だけどわかるよ。メロディー歌えるとき、気持ち良いよね。

一同:(笑)。

大門:実際そう。

—次に、楽友会に入って良かったことはありますか?大門さん、どうですか?

大門:さっきの大変だったことと繋がるんですけど、先輩と同期と後輩、さらにOB・OGや先生も含めて、いろんなバリエーションの関係性が出来て、それぞれの仕方でも仲良くなれたことですかね。先輩を中心に尊敬できる人がたくさん出来て、それは幸せなことだと思いますし、自分にとっての財産です。

—私は大門さんのことも尊敬してます。

大門:ありがとうございます。嬉しいです。

—では高木さんお願いします。

高木:楽友会に入った年、つまり自分が1年のときは、コロナで大学が基本オンラインだったから、学部の方で友達との深いつながりが出来なかったんだよね。だから、楽友会を通じて仲の良い人が増えたのがあるがたいかな。人とのつながりを作れた点で、楽友会に入って良かったなと思います。

—ありがとうございます。お二人とも人との繋がりがあって感じだったんですけど、確かに楽友会は合唱以外で団員と交流する機会も多いですよ。



絶対に楽友会じゃなかったら、自分がそこまで音楽のジャンルに深く踏み込むことはなかった

大門:今二人とも人間関係の話しゃべってたから、音楽面で良かったことしゃべったほうがいいかな。

—あるなら教えてほしいです。

高木:やっぱ歌がね、上手くなったと思う。この2年間で。カラオケの点数が大学入る前と比べて、平均して三点ぐらいは伸びてるよ。

—すごいですね！それはやっぱり正確に音がとれるようになったということでしょうか。それとも高音がいっぱい出るとか？

高木:高音もそうだし低音も。やっぱ2年間楽友会でちゃんと歌ってきたから、どの音も良い声で歌えているんだと思います。

—さすがです。

大門:自分は、良い声の先輩とか歌が上手い同期とかの声を聞いて、すごい綺麗だなと思うんですよね。楽友会に入って、身近にこんなすごい人がいるんだ！ってなって。あとは合唱曲とかこれまで全然知らなかったのに、それに詳しい人がいるから教えてもらって自分の知識が増えて。他の合唱団の演奏を聞きにいたり、オーケストラの生演奏聞いたりっていう経験にまでつながっているっていうのは、もう絶対に楽友会じゃなかったら、自分がそこまで音楽のジャンルに深く踏み込むことはなかったと思うので、良かったことだと思って思いますね。

—共感しかないです。では最後に、新入生の方にひとことお願いします。

高木:未経験者でも経験者でも、多分楽友会に入れば合唱はすごい楽しめるし、合唱以外にもいろいろ充実してるから、大学生活の中で何かこう打ち込みたいものを探してる人、まだ決まってない人は是非入って一緒に歌いたいと思います。

—ありがとうございます。大門さんはどうですか

大門:そうですね。未経験者はやっぱり技術面で不安なことが多いかと思うんですけども、楽友会はびっくりするぐらいサポートの手厚い団です。一対一で音取りしたり、声をみてもらえる時間があったり、なんかもう休み時間とかでもパートリーダーの人に質問すれば何でも答えてくれるし、凄い親身になって一緒に考えてくれるし。音楽面でも人間的な面でも、気軽に発言しやすい空気感になってる居心地の良いサークルだと思います。ぜひ一度練習をのぞいてみてください。そうしたらきっとわかります。以上です。

—ありがとうございます。では以上でインタビューを終了します。ありがとうございました。

大門・高木:ありがとうございました。

